

税金は財源ではなく “景気の調整弁”

税金が財源じゃないのなら無税国家にできるってこと？

税金は景気を調整するために必要なのよ。景気の良い時は増税、景気の悪い時は減税して、物価や需要のバランスをとることが本来の税金の役割なの。

でも、国民が疲弊している今は、徹底的に減税する必要があるし、消費税は永久に廃止でいいわ！

生活必需品にもかかる消費税は、低所得者ほど負担が重くなって、格差拡大の原因になってるの。

収入のほぼ全てが生活必需品に消える…消費税はもう無理…

本当の財源は供給力

本当の財源は、人がモノを造ったり、サービスを提供したりできる能力、つまり供給力です。供給力に見合った分だけ、お金を発行できるのです。



外国からも借れないよ～!



日本に借金問題はありません

自国でお金が発行できる政府に、税金で財源確保する必要はないのです

お金は無から生まれている 国債は通貨発行だ!

昔と違う現代の貨幣システム

昔は「金本位制度」といい、政府が持つ「金(ゴールド)」の保有量と見合った分しか通貨を発行できませんでした。しかし現代は「供給力」に見合った量の通貨を発行しています。これを「管理通貨制度」といいます。「金」ではなく「信用」を担保に無からお金を発行しています。これを「信用創造」といいます。

お金の生まれ方昔と今

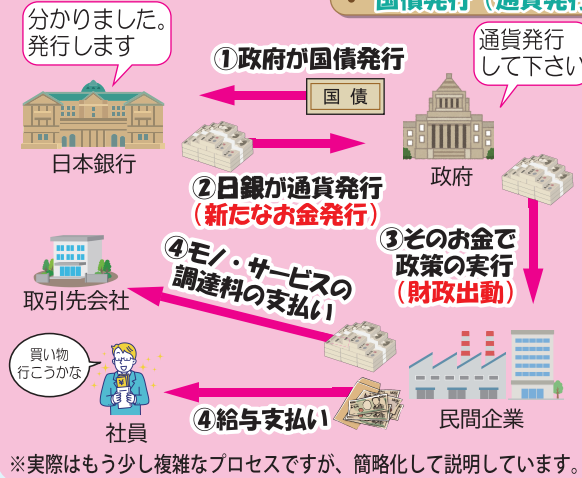
昔

金の保有量に見合った分

今

供給力
供給力に見合った分
(生産できる量など)

国債発行(通貨発行)の7プロセス



国債発行する事で国全体のお金が増え民間企業も、取引先も業績アップ! その従業員が買い物や外食をすれば、そのお店が儲かる。そのまた従業員が買い物すれば…というように、世の中にお金が回っていきます。→経済拡大

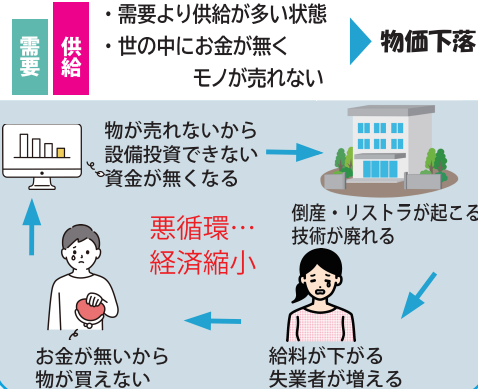
日銀は政府の持ち物のような存在です。ですから、国債を返済するという事は、政府が政府からお金を借り、政府が政府に利子を付けて返すようなものです。つまり、国債は返済の必要はないのです。

※実際はもう少し複雑なプロセスですが、簡略化して説明しています。

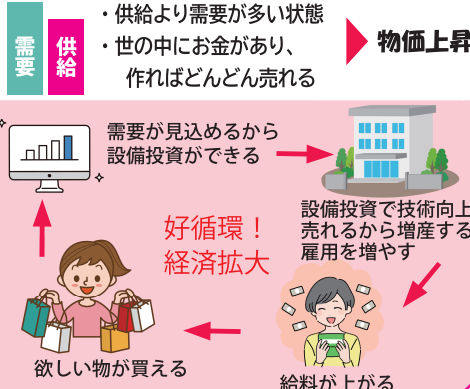
国債は名目上は政府の借金(負債)ですが、単なる通貨発行で、実質的に返済の必要はありません

デフレとインフレでは、有効な対策が真逆です

デフレ(不況)とは…



インフレ(好景気)とは…



有効な対策

デフレ時

- 積極財政 (国民の為に金を使う)
- 公共投資
- 公的雇用の拡大
- 減税で需要を押し上げる

インフレ時

- 緊縮財政 (国民の為に金を使わない)
- 政府支出カット
- 増税で需要を縮小

最近、所得が下がっているのに物価が上がる最悪の現象が起きています。

デフレの時にインフレ対策をやり続けた日本政府! デフレ脱却できないのは当たり前

今必要なのは、増税に耐える事ではなく、人や産業を守る事

日本は多額の国債を発行できる国です。それは日本には高い供給力があるからです。財政出動で景気が良くなり需要が高まっても、すぐに増産体制に入れるため、過度なインフレが起こりにくいのです。

しかし、長引くデフレで倒産が続き、日本の供給力は落ちてきています。日本でモノを作れなくなった時、本当の財政破綻が起こります。将来世代にツケを回さないためには、供給力が高いうちに、どんどん財政出動して、人や産業を守ることが何よりも大切なのです。

